

宮崎県感染症週報

■ 宮崎県第19週の発生動向

定点医療機関からの報告総数は1,082人(定点あたり33.4)で、前週の報告が連休の影響で少なかったため、前週比127%と増加した。また、前々週(17週)と比較すると、94%と少なかった。

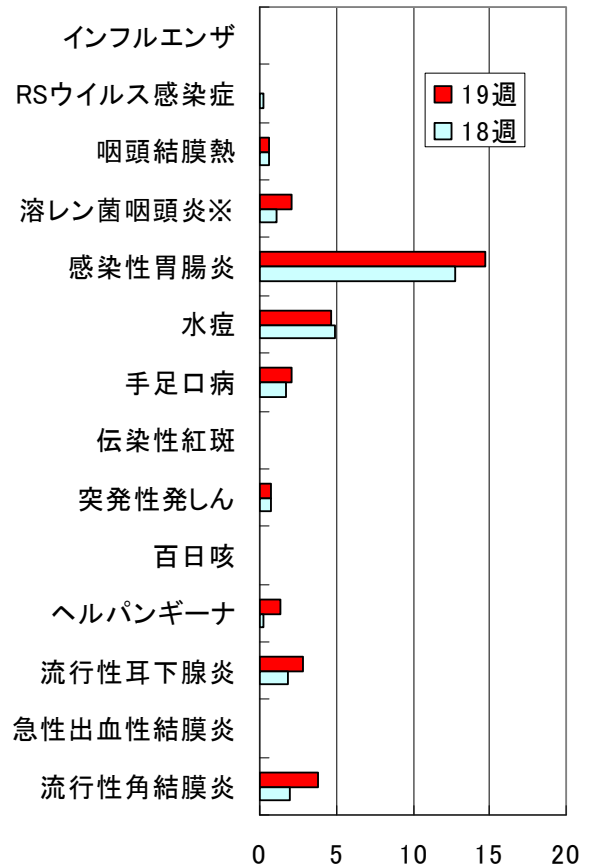
前週に比べ増加した主な疾患は、ヘルパンギーナと流行性耳下腺炎で、減少した主な疾患はRSウイルス感染症であった。

ヘルパンギーナの報告数は47人(1.3)で前週比671%と増加した。例年同時期の定点あたり平均値(0.5)と比較すると約2.6倍であった。中央(4.0)、日向(3.5)、延岡(2.0)保健所からの報告が多く、全て5歳以下の報告で、1歳が全体の約4割を占めた。

流行性耳下腺炎の報告数は103人(2.9)で前週比154%と増加した。例年同時期の定点あたり平均値(1.5)と比較すると約2倍であった。日向(14.3)、延岡(6.5)保健所からの報告が多く、警報レベルを超えている。年齢別では3歳から7歳で全体の約7割を占めた。

クラミジア肺炎1人が高鍋保健所から報告された。患者は4歳の女兒で原因菌は *Chlamydomphila pneumoniae*。

《前週との比較》



《定点あたり報告数》
※A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

□ 保健所別流行警報開始基準値超過疾患

	流行警報 開始基準値	定点あたり報告数		年齢分布
		宮崎県全体	基準値を超えた保健所	
咽頭結膜熱	3	0.61	日南(4.7)	全て5歳以下の報告であった。
感染性胃腸炎	20	14.8	日南(21.7)	1歳~3歳で全体の約半数を占めた。
手足口病	5	2.1	小林(8.0)	1歳~2歳で全体の約6割を占めた。
流行性耳下腺炎	6	2.9	日向(14.3)、延岡(6.5)	3歳~7歳で全体の約7割を占めた。

■ 全数把握対象疾患

- 1 類感染症 : 報告なし。
- 2 類感染症 : 結核 7 が宮崎市・都城（各 3 例）、延岡（1 例）保健所から報告された。
《宮崎市保健所》・80 歳代の女性で肺結核。咳がみられた。
・60 歳代の男性で肺結核。咳、痰、呼吸困難がみられた。
・70 歳代の女性で肺結核。咳、痰、発熱がみられた。
《都城保健所》・80 歳代の男性で疑似症患者。咳、痰、発熱、呼吸困難がみられた。
・50 歳代の男性で結核性胸膜炎。咳、発熱、胸痛、呼吸困難がみられた。
・70 歳代の男性で結核性胸膜炎。発熱、呼吸困難、胸水貯留がみられた。
《延岡保健所》・80 歳代の女性で肺結核。咳、発熱がみられた。
- 3 類感染症 : 報告なし。
- 4 類感染症 : マラリア 1 例が宮崎市保健所から報告された。ウガンダに渡航歴のある 20 歳代の男性で四日熱。発熱、悪寒、頭痛、脾腫がみられた。
- 5 類感染症 : 報告なし。

■ 全国第 18 週の発生動向

定点医療機関あたりの患者報告総数は 12.6 で、前週比 71% と減少した。この減少は連休の影響もあったと思われる。今週増加した疾患はなかった。減少した主な疾患はインフルエンザと A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎であった。

□ 全数把握対象疾患

- 1 類感染症 : 報告なし。
- 2 類感染症 : 結核 111 例
- 3 類感染症 : 細菌性赤痢 1 例、腸管出血性大腸菌感染症 16 例
- 4 類感染症 : A 型肝炎 11 例、つつが虫病 1 例、デング熱 1 例、マラリア 2 例、レジオネラ症 4 例
- 5 類感染症 : アメーバ赤痢 6 例、ウイルス性肝炎 2 例、劇症型溶血性レンサ球菌感染症 1 例、後天性免疫不全症候群 8 例、梅毒 4 例、風しん 2 例、麻しん 3 例

■月報告対象疾患の発生動向 <4月>

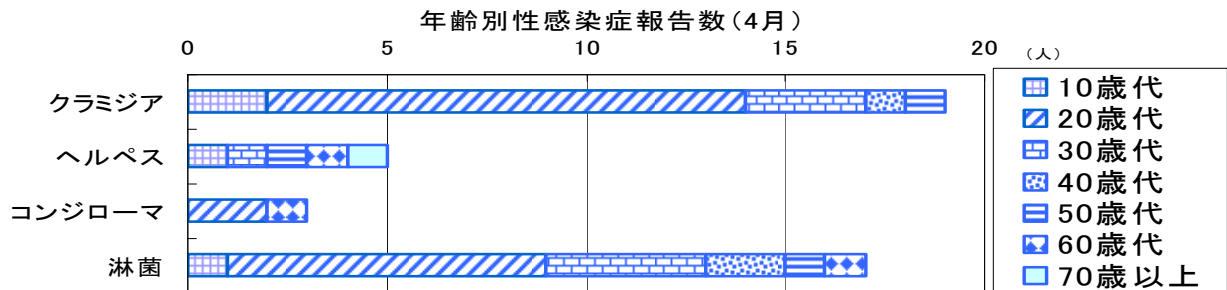
□性感染症

【宮崎県】 定点医療機関総数：13

定点医療機関からの報告総数は44人（3.4）で、前月比94%と減少した。昨年4月（3.0）の約1.1倍と多かった。

《疾患別》

- 性器クラミジア感染症：報告数19人（1.5）で、前月の約7割、前年の約8割であった。日向（4.0）、都城（3.5）保健所からの報告が多く、男性7人・女性12人で、20歳代が全体の約6割を占めた。
- 性器ヘルペスウイルス感染症：報告数5人（0.38）で、前月の約8割、前年の約7割であった。男性1人・女性4人で、10歳代・30歳代・50歳代・60歳代・70歳代以上がそれぞれ1人であった。
- 尖圭コンジローマ：報告数3人（0.23）で、前月の約4割、前年の約1.4倍であった。男性2人・女性1人で、20歳代が2人、60歳代が1人であった。
- 淋菌感染症：報告数17人（1.3）で、前月の約2倍、前年の約2.6倍であった。全て男性で、20歳代が全体の約半数、30歳代が全体の約2割を占めた。



【全国】 定点医療機関総数：959

定点医療機関からの報告総数は4,094人（4.3）で、前月比100%であった。疾患別報告数は、性器クラミジア感染症2,152人（2.2）で前月比100%、性器ヘルペスウイルス感染症731人（0.76）で前月比107%、尖圭コンジローマ420人（0.44）で前月比100%、淋菌感染症791人（0.82）で前月比93%であった。

□薬剤耐性菌

【宮崎県】 定点医療機関総数：7

定点医療機関からの報告総数は33人（4.7）で前月比89%と減少した。また昨年4月（4.9）とほぼ同数であった。

《疾患別》

- メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症：報告数19人（2.7）で、前月、前年の約7割であった。宮崎市（10.0）保健所からの報告が多く、70歳以上が全体の約8割を占めた。
- ペニシリン耐性肺炎球菌感染症：報告数14人（2.0）で、前月の約1.4倍、前年の約2.8倍であった。宮崎市（13.0）保健所からの報告が多く、10歳未満が全体の約9割を占めた。
- 薬剤耐性緑膿菌感染症：報告はなかった。

【全国】 定点医療機関総数：465

定点医療機関からの報告総数は2,479人（5.3）で、前月比107%と増加した。疾患別報告数は、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症1,973人（4.2）で前月比107%、ペニシリン耐性肺炎球菌感染症479人（1.0）で前月比108%、薬剤耐性緑膿菌感染症27人（0.06）で前月比100%であった。

宮崎県 感染症情報

(72定点医療機関)

2010年 第19週(05月10日～05月16日)

疾病名		第18週	第19週	宮崎市	都城	延岡	日南	小林	高鍋	高千穂	日向	中央
インフルエンザ	報告数		1					1				
	定点あたり	0.00	0.02	0.00	0.00	0.00	0.00	0.20	0.00	0.00	0.00	0.00
RSウイルス 感染症	報告数	10	5		2	1			2			
	定点あたり	0.28	0.14	0.00	0.33	0.25	0.00	0.00	0.50	0.00	0.00	0.00
咽頭結膜熱	報告数	20	22	2	4	1	14		1			
	定点あたり	0.56	0.61	0.20	0.67	0.25	4.67	0.00	0.25	0.00	0.00	0.00
A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎	報告数	38	75	14	13	30	5	4	4	1	3	1
	定点あたり	1.06	2.08	1.40	2.17	7.50	1.67	1.33	1.00	1.00	0.75	1.00
感染性胃腸炎	報告数	460	531	109	113	64	65	55	58	10	41	16
	定点あたり	12.78	14.75	10.90	18.83	16.00	21.67	18.33	14.50	10.00	10.25	16.00
水痘	報告数	178	170	59	20	24	17	11	14		20	5
	定点あたり	4.94	4.72	5.90	3.33	6.00	5.67	3.67	3.50	0.00	5.00	5.00
手足口病	報告数	63	77	15	6	4	12	24	7		6	3
	定点あたり	1.75	2.14	1.50	1.00	1.00	4.00	8.00	1.75	0.00	1.50	3.00
伝染性紅斑	報告数	1	1	1								
	定点あたり	0.03	0.03	0.10	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
突発性発しん	報告数	26	26	7	6	3	6	2	1		1	
	定点あたり	0.72	0.72	0.70	1.00	0.75	2.00	0.67	0.25	0.00	0.25	0.00
百日咳	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
ヘルパンギーナ	報告数	7	47	11	4	8	1		5		14	4
	定点あたり	0.19	1.31	1.10	0.67	2.00	0.33	0.00	1.25	0.00	3.50	4.00
流行性耳下腺炎	報告数	67	103	6	1	26		10	2		57	1
	定点あたり	1.86	2.86	0.60	0.17	6.50	0.00	3.33	0.50	0.00	14.25	1.00
急性出血性結膜炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00						
流行性角結膜炎	報告数	12	23	19	4							
	定点あたり	2.00	3.83	6.33	2.00	0.00						
細菌性髄膜炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
無菌性髄膜炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
マイコプラズマ肺炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
クラミジア肺炎	報告数		1						1			
	定点あたり	0.00	0.14	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	1.00		0.00	

インフルエンザ定点:59、小児科定点:36(インフルエンザ定点を兼ねる)、眼科定点:6、基幹定点:7

上段:報告数
下段:定点当り報告数

●全数把握対象疾患累積報告数(2010年第1週～19週)

2類感染症	結核	56例(7)			
3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	9例			
4類感染症	A型肝炎	3例	つつが虫病	1例	マラリア
	レジオネラ症	1例			1例(1)
5類感染症	ウイルス性肝炎	6例	急性脳炎	4例	後天性免疫不全症候群
	梅毒	4例	破傷風	2例	麻しん

()内は今週届出分、再掲

こども感染症情報

予防接種を受けましょう。(5月10日～5月16日)

暖かくなり、気候の良い時期になりました。子どもたちの体調が良い時期を見計らって、予防接種を是非受けましょう。

赤ちゃんは、お母さんから病気に対する抵抗力（免疫）をもらって生まれてきます。しかしその免疫は成長とともに減っていき、生後6ヵ月頃までに自然になくなってしまいます。また子どもは成長と共に行動範囲が広がり、いろいろな病気にかかりやすくなります。そのため、赤ちゃんが自分で免疫をつくって感染症を予防することが必要になります。その免疫を作る手助けをするのがワクチンです。ワクチンを接種して抵抗力をつけると病気にかかりにくくなったり、かかっても軽い症状ですみます。

予防接種はこわい感染症から子どもたちを守るために行われます。病気にかかってから治すよりも、かからないようにすることが大切です。予防接種の実施に関しては対象年齢や接種回数、接種間隔などが決められており、またスケジュール、費用も市町村で異なりますので、かかりつけの医療機関にご相談ください。